

松保地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年10月16日（火）19:00～20:20
- 2 場所 松保地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 26名
市出席者 5名（深澤市長、尾室教育長、田中企画推進部長、網田都市整備部長、安本地域振興局長）



4 テーマ 地域の活性化と防災力の向上

5 概要

（地元あいさつ）

本日のテーマは、地域の活性化と防災力の向上としている。具体的には旧自然少年の家跡地の整備、桂見台団地の進入路、地区体育館の整備の3点である。いずれも我々の強い思いがあるテーマである。

（市長あいさつ）

限られた時間だが、しっかり皆さんと意見交換をさせていただきたい。

今年から少し地域づくり懇談会の進め方を変えさせていただいている。従来よりもフリートークに近いような意見交換とし、ざくばらんに膝詰めのような形で進められるよう、今年度から順次各地区で開催をさせていただいている。

松保地区の取組みの説明

<テーマの背景>

少年自然の家跡地が県立美術館の建設予定地となり、地域の活性化が期待されたが、計画は白紙となり、跡地は手つかずのままとなっている。跡地に続く道路の斜面も簡易の整備となっていて、崩落の危険があり、ふもとの住民は心配している。地域の活性化を図るためにも跡地の活用が望まれている。

また、近年災害が多発しており、地区で防災についての意識が高まっている。その中でインフラや災害時の避難場所の整備など様々な課題が浮き上がってきている。

<地域の取組>

①旧少年自然の家跡地の整備について

平成28年11月10日、公民館にて県立博物館の職員より経緯の説明があった。出席者から、県の対応はおかしい、ゼロベースに決定した時点で地元や土地提供者に対し、説明や話し合いの場を設けるべきとの意見があった。

平成29年3月、地区で何度かの意見交換の末、県教育長と鳥取市長宛に要望書の準備をする。

市長へ要望書を届けたいと秘書課へ連絡すると、今しばらく待ってほしいとのこと。その後、2、3度連絡するも返答はなかった。その間、県立博物館の方と平成29年6月に面談、平成30年4月にも面談、また電話でのやりとりのなかで、話し合いのテーブルを設けてほしいとのことだった。

当方としては、一方的に県と地元の二者での話し合いもいかなものかと考え、市当局も交えての解決策を希望するところであるが、市の対応に疑問視せざるを得ない。

②桂見台団地の進入路について

民間開発の団地として開発されて30年もたつ中、大世帯数の団地に成長している。進入路が大降雪や大雨警報時にはパニックになることもある。ましてや崩落の危険もあり、他ルートでの新設が望まれる。

迂回路として、当地最奥部より出合いの森～美術館予定地ルートの間につなぐ案もあったが、鳥取市の行政政策としてか頓挫したままで話にならない状況だ。

③地区体育館の整備について

体育館の活用例として、地区に関しては地元の一般や子どものスポーツサークル、年間恒例の体育行事の他、隔年毎の敬老会などを開催している。また、毎年防災訓練の予備会場となり、避難所としては昨年夏の大雨の時に開設されている。

清掃活動として、地区の長生会の手で草取りを中心とした周辺の整備を行っている。

(地元)

旧少年自然の家跡地の整備についてお願いや質問をさせていただきたい。経過は資料のとおりである。

ちょうど10月3日、県議会の質問で平井知事が市には迷惑をかけたと言われた。

市長が知事ともう少し早く対話をされる必要がなかったのだろうか。そのために私たち

も要望書まで作り、市の執行部の方と意見交換できたらという思いがあった。昔使っていた天文台が荒廃して無様な格好になる、泥棒や子供が悪さをするような場所になっているという地域からの声がある。また、高住側の急傾斜地についても、防災の観点から不安があるが、市当局の皆さんは知っているのだろうか。

県に対しても決して満足をしているわけではない。凍結解除という方向性を明確にいただき、地元の要望や意向を聞いていただきたいと思っている。県と私たちが直接話をするにしても、当然市にも何らかの踏み出しをしていただきたいと思っている。これに対して、市長に意向を確認し、納得のいく返答がいただきたい。

我々地元が困っているときに、何らその返答がないということに対して非常に憤りを感じている。市長や執行部の皆さんの意向を確認して、懸案の課題解決に向けて進んでいただけたらと思う。

(市長)

この美術館の問題については、我々鳥取市民、東部の住民も県の進め方について憤りを覚えている。いつ、どういった形で白紙になったのか、なぜ凍結し、急ぎよ美術館を建設するということに至ったのかについて、全く説明がない。そういったことを県から市民、県民にしっかりして説明していただくということが不可欠ではないかと思っている。鳥取市としても、直接お世話になっている松保地区の皆さんの思いやお考えも伺って対応していくことが必要であるし、そのようにさせていただきたいと思っている。

ただ、県はこの問題を非常に矮小化して収束を図ろうとしているように見受けられる。倉吉でよかったなと誰もが思えるような説明を、まず県が尽くしていただく必要があると考えている。

片山前知事が当時、美術館は事業としてやらないことを打ち出された直後から毎年のように直接県知事宛てに、何とかこの事業を進めてほしいと要望してきた。現在の平井知事に対しても、知事に就任された直後に直接会って、凍結を解除して進めてほしいと、要請を行っている。その当時は、これはあり得ないという回答であった。直接知事が、この事業はもうやらないと話されたことを覚えている。

また、片山前知事は、この旧少年自然の家の跡地での事業は凍結ということであったが、凍結を解除したら当然候補地はここだということも明言していた。そういった経緯を踏まえると、県の進め方は非常に不誠実なやり方だったと思う。県議の質問に対して知事が道路の負担分について回答をしておられたことについて、今月の定例記者会見の折に市政記者から質問があった。私はこの道路部分についての市の負担分を返せば済むというようなことに、この問題を矮小化させていくべきではない、もっと誠実に県民、市民の皆さんに向き合ってこの経過を説明していただきたいというようなことを、申し上げたところである。安易に幕引きをしていこうとしていることが見受けられる県の進め方について、私は非常に疑念を感じているところである。やはり誠実にこの事業を進めていただくようにこれからも県には要請をしていきたいと思っているので、ご理解いただきたい。

(地元)

私達も地域の会合でこの件について聞かれて困っている。地域にも気心を使って向き合っていた良かった。

対応については分かったが、早めに動いていただきたい。こうして意見交換をしている間に問題が起きた場合、誰が責任を持つのだろうか。しっかり確認をしてほしい。今の行政の対応としては、何かあったら全員逃げなさいというものである。それでは済まないわけであり、地元の大きな心配事である。

準備していた要望書の中身は、多目的広場としてしっかりしたものを整備してほしい、進入路をきっちりしてほしいというものだ。面積がどれくらいあるか知らないが、少なくとも1万㎡ぐらいの土地は取れるのではないかと考えている。そういった話し合いを至急に持っていただきたいと思っている。

(市長)

市道美術館通りの安全管理については担当部長よりお答えさせていただきたい。1万㎡あるというのは、これは少年自然の家の跡地であろうか。ここは県有地なので、併せて県にこの事業の対応や考え方を示していただくことが必要だと思う。今の状態で県有地を鳥取市が活用していくという状況にはならないと思うが、地元の皆さんのお考えや思いは十分お聞きしたいと思っている。

(都市整備部長)

美術館通りの整備については、ご承知のとおり凍結という状況である。高住側から山を切って整備を進めたが、長い間、法面の部分が真砂土であり、植生もない状態であったため、高住側に土が流れてきたということが過去にあったと承知している。市の対策として、沈砂池という、流れてくる土を溜めるための池を設置して維持管理を続けている。平成26年には沈砂池の浚渫を行っており、それ以降も年に1回、この沈砂池の状況を確認しているが、まだ土を溜める余力がある状態だと確認している。道路を整備したときには確かに真砂土の状態で、土が流れやすかったという状態にあったが、現状としては、草、木が生えていて土が流れにくくなっている。現在のところは大きな崩落への懸念は少ないのではないかと、市としては考えている。

今後も年に1度のパトロール等を通じ、現状の管理や安全に努めていきたい。

(地元)

そういったことを都度公民館まで報告してもらえるとありがたい。

(都市整備部長)

今後、パトロールで確認する時期やその結果について、公民館を通じて報告するようになりたい。

(地元)

地図上では道路が工事中となっているが、実際には中止状態になっている。この工事中の道路のあたりは急傾斜地になっているが、ゲリラ豪雨が来ても絶対大丈夫だろうか。雨が集中した際、下手の団地のほうに流れ込まないだろうか心配している。

(都市整備部長)

絶対に安全とまでは答えられないが、道路を整備するに当たり、道路の基準に沿って法面を作っているので、一定の安全度を有していると考えている。

この道路は整備が凍結された経緯があり、その段階では長年にわたって、法面の土が流れたということが発生していたと思う。しかし、現状としては草木で覆われており、裸地であったときに比べて土の流れは格段に少なくなっていると考えている。沈砂池等のパトロールと合わせて、こういった法面の現状も併せて確認していきたい。

定期的な確認は年1回実施していくが、もし、土や水が流れてくる等、通常と違う状況があった際は、市に連絡いただければ、現地の確認をさせていただきたいと思う。

(地元)

この道路を工事する場合、市としてはどういう整理をするという思いがあるのだろうか。

(市長)

まだ、この道路を具体的にどうするかは決めていない。今は安全管理が一番大切だと思っている。県がこの跡地をどのように活用されるか示されていないので、道路の対応についてもまだ決めかねている。

(地元)

桂見台団地の進入路について提案する。災害など有事のときの290世帯の住民の安全安心を本気で考えてもらいたいということである。

現在、この松保地区の約4分の1の世帯がこの団地1か所に集中しているが、進入路が1か所しかない。そのため、複数のルート確保が必要ではないかと思っている。この地区要望については、少なくとも平成11年から平成27年までに8回は提出しているが、市側の回答はそのたびに否定的な内容に終始している。

まずは計画や構想の場に持っていけるよう、少しでも前進することをお願いしたい。

参考までに地域の現状・課題を説明すると、まずは今1本ある新入路は出入りに使う道路だが、入口付近に急峻な斜面がある。そのため、ゲリラ豪雨のときは非常に心配であり、大雪時は団地から国体道路の信号まで30分ぐらい要することもあると聞いている。公園でイベントがあると、交差点付近の道が非常に渋滞することもある。

裏道も1本あるが、非常に狭く、管理も十分ではない。草木が道まではみ出してきており、そもそも道の幅からしてすれ違いは不可能な道である。また、この道は農道につなが

っており、農道の入り口には関係者以外の車両通行は御遠慮くださいという立て看板も立っているため、団地の方も簡単に通りづらい。そういった状況があるためか、団地の西側にある西桂見集落を迂回し、その村中を通して本道に出る車も少し見受けられる。

そういった状況から、万が一進入路が通行止めとなった場合、団地が孤立し、生活面で支障を来すことも想定される。桂見西交差点という三叉路があるので、そこにつながるような形で十字路の交差点にさせていただきたいと思っている。この三叉路は真直ぐ行けば鹿野のほうに行き、右折すれば鳥取大学を通過して空港に向かうというところである。そこにつながる十字路の交差点にすれば、交差点での交通面の安全性が一段と向上するのではないかと考えている。

団地の遊休施設の利用や、桂見西交差点までの田んぼの買収という問題も絡んでくるが、そこにつながる道があれば理想的だと考えている。団地の奥から出合いの森に抜けるルートも検討されたと聞いたことがあるが、政策的に中断しており、コスト面から考えれば、桂見西交差点へつなげる方が現実性は高いのではないかと考えている。

(市長)

このことについては、あまり前向きな回答をしていなかったことは私も承知している。こういった形が可能なのか、進めるとすればどのような問題があるのかということは内部でも検討している。今すぐにとというのは難しいが、要望としては受け止めさせていただきたいと思う。

(都市整備部長)

国体道路の三叉路への接続について、想定される課題を説明したいと思う。1点目の課題は必要な道路の幅員についてである。三叉路となっている所を十字路にする場合、県道鳥取空港布勢線については、北から南に来るときに、右折用と左折用のレーンがある。北に行く車線は1車線だが、広い幅員をとってある。南の市道から三叉路に接続する場合、県道側の大きな幅員と同じぐらいの道路を確保しないと安全な交差点にならない。集落の中のメイン道路は2車線の道路で、全体で9mほどの幅だったと思うが、交差点の部分は20mぐらいの幅が必要になるというのが課題の1点目である。

2点目は農道についてである。主要地方道鳥取鹿野倉吉線の南側を農道が並行しているが、農道とこの道路は高低差がなく、農道の大きな迂回が必要になる。また、このあたりは農地が介在しているので、道路を通した場合、不整形な形で農地が残ってしまうことも課題としてある。

団地側から行くと、雨が降ったときに一時的に水を溜めるためのプール状の施設がある。その施設の高さとその下の市道との高低差が3mぐらいしかない。ここに道路を作る場合、車が通行するための空間の確保が難しいのではないかと考えている。

形状的には以上のような課題が想定されると考えている。

(地元)

プール状の施設が、最上部から3mぐらいと言われていたが、5mぐらいあって充分下を通れるのではないかと思っている。下をトンネルにしたら高さは4m以上あると思う。

また、貯水池が3つあるが、ゴミが溜まることがあり、フェンスがあるため地域はその管理にも懸念している。

確かに十字路とした場合の南側に幅員がいるかもしれないが、団地に上がる貯水池のところまで、対面交通の2車線を取れば可能だと思う。この治水池はやめて、湖山池に流したらいい。

(都市整備部長)

この団地はもともと市街化調整区域の中の土地を造成しているため、周辺には大きな雨を流す水路がない。そのため、この付近に雨が降ったときには、この3つの貯水池に一時的に水を貯めることで、下の方にある西桂見等を水害から守る役割をしている。そういうこともあり、この貯水池を廃止することは困難であると考えている。

(地元)

できない要素よりできる要素を模索してもらいたい。地域は困っている。

(市長)

決してできない要素を並べたわけではない。ルートの可能性について内部でも検討してみたところであるが、なかなかいい形が描けないというのが今の状況である。団地との高低差や幅の広い道路への接続、三叉路から交差点になるにあたっての安全確保、農道があること等、なかなか難しいということできいい回答ができなかった。このあたりについては持ち帰って研究したいと思う。

(都市整備部長)

この団地整備をしているときに、メイン道路については2車線という幹線的な整備がされているので、当面はこれを使っていただく必要があると思う。懸念されている入り口の斜面については、今一度現地を確認させていただきたい。

当面はこの2車線道路が機能するように維持管理に努めたい。除雪の話についても、平成29年の1月、2月の大雪のときに、鳥取市内で交通が寸断したことで、迷惑をかけたということがあると思う。そういった経験を踏まえて、災害的な大雪が降った場合の取り組み方法の見直しをしている。この団地内の2車線道路も除雪の重点路線と位置づけているので、孤立することのないよう、しっかりと対応していきたいと思う。

(道路課補足)

国体道路交差点への接続については、研究のための交通量調査と交差点解析を行っており、年度内に整備課題を抽出することとしています。

団地入口の斜面については、県が有識者、県土木災害・砂防ボランティア協会の協力を得て実施している、「裏山診断」を行うよう県と協議する予定です。

（地元）

団地南西部の道をどこかにつなげるということを以前聞いたことがある。もしそういう計画あったのであれば、もう一度見直していただきたい。

また、その付近の溜池あたりが工事中となっている。工事するに当たって通っている道があると思うので、そことつなげるということも難しいだろうか。

（都市整備部長）

過去には、その場所から下の農地や農道へ接続できないかという検討をした経過がある。結果としては、かなり高低差があるため困難という結論となり、要望に対してそう回答をしたと聞いている。

（地元）

地区体育館についてだが、トイレの整備をお願いしたい。色々なイベントで多くの人が使用するが、狭い上にいまだに男女共用となっている。人権や使い勝手の観点から、何とかしてほしいと思う。出入口ももっと広がったらと思っている。

また、体育館の南側に空き地があるが、雨の日には水浸しになって歩けず、車も止められない。地区民に親しまれるような施設であってほしいと思うので何とかお願いしたい。

（教育長）

この体育館の整備については、これまでも要望をいただいているが、なかなか満足のいく回答ができていない。この体育館は昭和58年、1983年に造られ、現在35年経っている。我々としては、この体育館の耐用年数は50年と見ており、次の更新は2033年と計画している。したがって、この体育館の大きな改修は2025年から2034年の10年間の間で、他の地区の体育館とあわせて、どういった整備をするかということを検討していく。現在、男女兼用のトイレとなっている地区体育館は市内で3つしかない。順次改善をしてきたが、この松保の体育館は敷地が鳥取市の部分と県の部分があり、鳥取市が独自に改修することができない。

体育館裏の駐車場の話があったが、車が道路にはみ出ないような形で、体育館裏の整備ができるよう検討したい。トイレの改修については、今は難しいと考えている。

（地元）

補足だが、体育館裏は駐車場として扱われていない。使おうと思えば使えるが、進入路が狭くて安全上の問題がある。この体育館裏が使えたらという希望もあるので、出来る限り整備をしてほしい。トイレの件は分かったが、男女兼用のところがほとんどないということなので、急いでもらえたらと思う。

(地元)

体育館については、2033年までは基本的には一切手をつけず、2033年を目安に新しく建替をするイメージでよろしいか。

(市長)

決してそこまで何もしないというわけではないが、大体そのころに更新の時期がくるということである。

トイレの部分は引き続き検討していく必要があると考えているが、今のスペースで男女共用を解消していくことは難しいと考えている。体育館裏の土の部分で、もしその用地が使えるようだったら、そこにトイレを確保するというのも一つあるのではと思う。そういった可能性等については、もう少し調べないと回答できないので、引き続き検討したい。2033年まで何もしないというわけではないので、それはご理解いただきたい。

(地元)

体育館裏の部分は水が溜まって大変である。ここのかさ上げや排水が喫緊の課題である。

体育館と千本桜に上がる道の所にある擁壁を30cmでも広げてもらいたい。県有地に入るかもしれないが、体育館裏に車が進入しやすいように考えていただかないと、ほったらかしのままでは事故も起きる。とにかく現場の状況を見てほしい。一番大事なことは、裏の駐車場が使えないということである。

(教育長)

駐車場に利用できるよう、今検討しているところである。ただ、土の状態ではなく、何らかの改良を検討したいと思っている。

(地元)

地区要望としても上げていると思うが、今、田園クリニックの所とふせ食堂のところに横断歩道がある。その2つの横断歩道は各地区から児童が集まって多くの人々が渡る通学路となっている。そこに押しボタン信号をつけていただければと思う。

(市長)

要旨は伺った。

(学校保健給食課)

本年8月7日に、鳥取警察署、世紀小学校、市道路課、教育委員会で市道古海高住線、田園クリニック付近の交差点への信号機の設置について、通学路合同点検を実施しました。警察としても、押しボタン信号機の設置について、検討中と伺っています。

(協働推進課)

ふせ食堂付近の押しボタン式信号機については、地区要望で提出されていないようですので、要望される場合は、あらためて地域でご相談ください。

(市長あいさつ)

皆さんの意向に十分沿った回答ができなかった部分があったと思うが、持ち帰り、実現に向けて引き続き内部で検討を続けていきたい。

冒頭、市の対応が悪かったのではないかという話があった。しっかり受け止めたい。この美術館の問題は、県全体の問題ということで理解しており、県を挙げての大事業を円滑に進めていただくよう、これからも要望し続けていきたいと思う。その中で、松保地区が予定地であったこの問題については、解決策が見つけていけるのではないかと思う。この美術館構想を県が進めるに当たっての県民、市民に対する誠実な説明、事業の内容等についてしっかりと示していただくことがまず必要だと思っている。今後もこの問題についてはしっかり県にも要望し、機会を見つけて鳥取市の考え、地元の皆さんの思いをしっかりと伝えていきたい。